

平成25年度

杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン実績評価書

平成26年8月

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

◎ はじめに

病院改革プラン（以下、「改革プラン」という。）は、平成19年12月に総務省において策定された「公立病院改革ガイドライン」に沿って平成21年3月に策定され、その取り組み状況についての点検・評価をおこなう為、評価委員会が設置された。

「杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会」は、外部有識者、住民代表等を含む5名の委員で構成され、平成25年度決算の状況を含め、改革プランの実施状況の点検・評価を実施した。

1. 評価区分の基準

「計画・実績」「改革プランにおける数値目標等（実績・目標）」「公立病院として今後果たすべき役割」について評価を行った。

評価は次の表のように4段階とし、それぞれの評価の基準は説明のとおりである。

評価	評価の基準
◎	計画、数値目標を大きく上回った
○	計画、数値目標をほぼ達成した
△	計画、数値目標をやや下回った
×	計画、数値目標を大きく下回った

2.総合評価

昨年度来からの評価結果に対する経過を踏まえ、一応の努力はみられるものの、引き続き経常収支比率等の改善を目指して頂きたい。

今後も、常勤医師・看護師の確保に注力し、診療機能の充実、経営改善を図るとともに地域の基幹病院としての役割を更にしっかりと担っていただきたい。

I.「公立病院として今後果たすべき役割」

① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供

入院患者数が減少し、入院・外来共に収益は減少した。しかし救急科専門医の3名体制が継続し、救急医療が充実することによって、公立病院として地域の救急医療を担っていることは、高く評価できる。

② 生活習慣病に適切に対応する医療提供

健診者数・健診収益ともに増加している。今後は専従医師の確保に注力し、地域の予防医療に取り組んでいただきたい。

③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供

DMA T活動、および各種の訓練・研修会への参加等の積極的な姿勢は評価できる。又、平成25年度は機材の整備も進み災害時の医療機能確保へ対応している。今後も災害拠点病院としての機能を果たしていただきたい。

④ へき地医療拠点病院としての機能の提供

患者数は高齢化に伴い徐々に減少傾向にあるが、無医地区への巡回診療はへき地医療拠点病院として高く評価できる。

⑤ 小児医療・産科医療の確保

地方において、小児科医 3 名 産科医 2 名を維持しながら地域医療に貢献していることは高く評価できる。

⑥ 研修機能の充実

認定看護師研修への参加等、看護師の研修体制を整備している。又、臨床研修医は平成 25 年度も引き続きフルマッチであり評価できる。今後も嶺南医療振興財団奨学生の確保・定着に注力することを期待する。

⑦ 看護師の養成・確保

さまざまな取組をおこなってはいるが、平成 25 年度は採用者数と退職者数の差が 1 名の増で看護師の確保がなされているとは言い難い。今後は現在の取組の他、看護師の定着及び、併設の公立若狭高等看護学院卒業生の確保の取組が望まれる。

⑧ 地域医療機関との連携の推進

紹介率・逆紹介率に対する取り組み姿勢については一定の評価ができる。しかしながら、当地域の診療所数と医療提供体制を考慮すると、残念ながらこれ以上の紹介率・逆紹介率の増加は期待しがたい状況にある。

「嶺南」二次医療圏ではないが、紹介率・逆紹介率の向上、患者数増加対策、ひいては増収のために、小浜市と生活圏の一致する京都府舞鶴市方面、「中丹」二次医療圏に属する「国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院」および「独立行政法人 国立病院機構 舞鶴医療センター」等との連携を更に向上させることが必要である。

II. 「経費削減・抑制対策」

① 給与費の抑制

電子カルテ導入に際しての、超過勤務手当の増加は考慮する。医療技術職員の増加も、診療報酬請求の基準上、必要性を認める。

② 経費の削減

今後は消費税率のアップにも注視し 薬品費、診療材料費の価格交渉等により対医業収益で減少を目指してもらいたい。

III. 「収入増加・確保対策」

① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。

急性期病院として、平均在院日数の増が抑制されていることは高く評価できる。

今後は、病床利用率を確保し、収益の増加を図ることが望まれる。

② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。

診療報酬改定によって、重急性期医学管理料が削除となるため、今回の評価はしないこととする。

③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。

初診時特定療養費・一部診断書料金の見直しにより増収を図っている点は評価できる。紹介外来制の診療科を開放し、初診時特定療養費の徴収による増収を期待する。

④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。

診療報酬改定説明会等へ多くの職員が参加しており、成果を出していることは評価できる。今後も DPC を有効に活用し、収益増を目指して頂きたい。

⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価（DPC）準備病院に平成20年度申請した。

診療情報管理士の本来の仕事ではないが、収益性の向上を図るには、DPC病院として診療情報管理士の育成に取り組む姿勢は評価できる。

⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。

紹介率・逆紹介率は微増しているが、地域の医療環境を考慮すると紹介率に関する地域医療支援病院の現行施設認定基準を満たすことは困難と考えられる。地域医療支援病院としての機能は十分に充たしていると認められるので、政治的配慮が必要な問題として地域の状況に見合った基準の見直しに期待する。

改革プランにおける数値目標等（実績・目標）

（単位：百万円）

収支	平成24年度 決算	平成25年度 プラン (A)	平成25年度 決算 (B)	決算-プラン B-A	平成26年度 プラン
病院事業収益	6,965	6,767	6,864	97	6,767
うち外来収益	1,702	1,588	1,700	112	1,588
うち入院収益	4,219	4,187	4,101	▲ 86	4,187
うち医業外収益	669	668	635	▲ 33	668
病院事業費用	7,447	7,026	7,593	567	7,026
うち給与費	3,376	3,270	3,391	121	3,270
うち材料費	1,293	1,420	1,289	▲ 131	1,420
うち経費	785	750	841	91	750
うち減価償却費等（資産減 耗・繰延償却）	996	782	1,013	231	671
純損益	▲ 482	▲ 259	▲ 730	▲ 471	▲ 259
累積欠損金	3,899	4,840	4,629	▲ 211	4,840
資金収支	514	523	283	▲ 240	523
不良債務	-	-	-	-	-

財務に係る数値目標	平成24年度 決算	平成25年度 プラン (A)	平成25年度 決算 (B)	決算-プラン B-A	平成26年度 プラン	自己評価	委員会評価
経常収支比率	93.6	96.3	90.4	▲ 5.9	96.3	×	×
（減価償却費を除く）	103.6	106.5	98.9	▲ 7.6	106.5	×	×
医業収支比率	94.9	92.8	89.2	▲ 3.6	92.8	×	×
職員給与費率	53.1	53.6	54.4	0.8	53.6	△	△
病床利用率（一般）	85.0	81.0	80.4	▲ 0.6	81.0	△	△
病床利用率（療養）	94.8	90.0	91.1	1.1	90.0	○	○
病床利用率（全体）	84.3	82.2	79.9	▲ 2.3	82.2	△	△
外来患者数（1日平均）	776.9	810.0	781.9	▲ 28.1	810.0	△	△

1) 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供
(単位:人)

		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
1日平均 患者数	外 来	758.8	776.9	781.9
	入 院	371.5	379.3	359.4
1日平均 救急患者	外 来	29.4	29.6	33.0
	入 院	8.0	7.4	7.1
1日平均 救急患者	時間外	27.7	27.7	29.4
	救急車	5.5	5.3	5.5

救命救急センター 市町別取扱い患者数

(単位:人)

		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
小浜市		9,099	9,433	9,891
若狭町	旧上中町	1,278	1,374	1,434
	旧三方町	374	462	325
おおい町	旧名田庄村	580	560	500
	旧大飯町	620	617	693
美浜町		56	39	41
高浜町		664	622	646
その他(県内外)		1,026	880	1,107
合計		13,697	13,987	14,637

若狭地域における救急車搬送状況について

平成23年度

(単位:人)

搬送先	死 亡	重 症	中等症	軽 症	合 計
若狭消防組合管内 ①	25	557	654	961	2,197
うち小浜病院	17	466	578	860	1,921
若狭消防組合管外 ②	0	71	33	24	128
舞鶴共済病院	0	32	17	17	66
舞鶴医療センター	0	14	8	7	29
舞鶴赤十字病院	0	1	0	1	2
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
①+②	25	628	687	985	2,325

平成24年度

(単位:人)

搬送先	死 亡	重 症	中等症	軽 症	合 計
若狭消防組合管内 ①	40	515	711	849	2,115
うち小浜病院	25	429	614	766	1,834
若狭消防組合管外 ②	0	69	19	22	110
舞鶴共済病院	0	34	8	16	58
舞鶴医療センター	0	10	7	5	22
舞鶴赤十字病院	0	1	0	0	1
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
①+②	40	584	730	871	2,225

平成25年度

(単位:人)

搬送先	死 亡	重 症	中等症	軽 症	合 計
若狭消防組合管内 ①	40	551	547	1,004	2,142
うち小浜病院	30	462	471	908	1,871
若狭消防組合管外 ②	0	80	35	19	134
舞鶴共済病院	0	52	17	13	82
舞鶴医療センター	0	9	15	6	30
舞鶴赤十字病院	0	1	0	0	1
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
①+②	40	631	582	1,023	2,276

2) 生活習慣病に適切に対応する医療の提供

(単位:人)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	受診者	要医療指摘者数	受診者	要医療指摘者数	受診者	要医療指摘者数
人間ドック	705	512	723	447	1,139	495
PET健診	22	6	40	15	35	10
脳ドック	68	25	62	13	88	38
人間ドック+脳ドック	67	49	46	38	54	36
人間ドック+PET健診	4	3	3	2	-	-
特定健診	63	7	81	9	90	11
婦人科癌検診	21	3	-	-	-	-
協会けんぽ	-	-	124	74	216	148
市町個別がん検診	-	-	48	-	68	-
受診者数合計	950	605	1,127	598	1,690	738
健診収入	49,146,087円		51,817,738円		54,832,169円	

3) 地域災害医療センターとしての医療機能の提供

「評価シート記載の通り」

4) へき地医療拠点病院としての機能の提供

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
巡回診療日数	168	168	168
1回平均患者数	6.5	6.3	5.3

年度別へき地診療実人数調

(単位:人)

年度	壱海	上根来 (上根来・下根来)	宮川	音海	日引	上瀬	奥杉山	河内	西浦 (常神・神子)	合計
	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数
20	407	211	140	120	30	50	36	46	598	1,638
21	393	222	114	102	24	45	26	38	395	1,359
22	357	200	94	91	24	41	35	45	378	1,265
23	253	167	91	58	14	32	48	42	388	1,093
24	239	139	62	47	23	25	62	43	417	1,057
25	196	119	39	43	24	37	56	40	351	905

5) 小児医療・産科医療の確保

(単位:人)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	
1日平均 患者数	小 児	外来	70.6	70.0	66.9
		入院	4.5	4.7	3.7
	産 科	外来	30.6	29.8	26.5
		入院	9.5	10.6	6.7
分娩件数	正 常		110	100	133
	異 常		77	75	29
	帝王切開		44	42	40
	計		231	217	202
分娩収入(自費非課税分)		89,563,135円	85,573,580円	82,345,620円	

6) 研修機能の充実

学会・研修会等への出席

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医 師	228	246	247
看 護 師	97	154	165
医療技術員	75	139	90
事 務 職 他	72	81	65

臨床研修医の状況

(単位:人)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度
病 院 単 独		7	7	8
大学との たすき掛	医科	1	1	0
	歯科	1	0	0
合 計		9	8	8

救急救命士の研修状況

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
救急救命士の研修	12	16	1

7) 看護師の養成・確保

(単位:人)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度
養成所入学者		37	32	44
卒業 者	小浜病院組合	6	12	11
	その他	14	20	20
	計	20	32	31
看護 師	新採用者	19	17	20
	退職者	16	23	19
	増減	3	-6	1

8) 地域医療機関との連携の推進

平成25年度 医療機関別

紹介患者件数

田中整形外科医院	365
にしお内科クリニック	336
名田庄診療所	267
小津外科医院	255
上中病院	220
千葉医院	184
舞鶴共済病院	166
高浜病院	126
堀口医院	105
なごみ診療所	103
福井大学医学部付属病院	103
山手医院	100
いちせクリニック	96
吉井医院	77
田中病院	76
西津診療所	62
歯科大下医院	60
京都大学医学部付属病院	55
レイクヒルズ美方病院	53
市立敦賀病院	52
敦賀温泉病院	51
中名田診療所	50
嶺南病院	49
村上眼科医院	46
まつき歯科医院	34
和田診療所	32
関根医院	32
福井済生会病院	28
とむらクリニック	26
国立福井病院	24
中山クリニック	23
三方診療所	23
木村医院	21
福井県立病院	20
小計	3,320
その他(19件未満)	625
総計	3,945

逆紹介患者件数

舞鶴共済病院	189
福井大学医学部付属病院	158
上中病院	122
京都大学医学部付属病院	105
小津外科医院	98
名田庄診療所	96
高浜病院	91
田中整形外科医院	90
にしお内科クリニック	85
なごみ診療所	69
千葉医院	68
吉井医院	68
田中病院	54
レイクヒルズ美方病院	43
山手医院	41
西津診療所	31
福井済生会病院	31
中名田診療所	30
歯科大下医院	28
嶺南病院	27
まつき歯科医院	25
市立敦賀病院	23
国立福井病院	22
木村医院	21
福井県立病院	20
舞鶴医療センター	20
小計	1,655
その他(19件未満)	830
総計	2,485

平成25年度 杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン評価シート

公立病院として今後果たすべき役割

嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。							
役割と計画	実 績			進捗の判断	自己評価	委員会評価	
① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供	平成23年度	平成24年度	平成25年度	①長期減少傾向にあった外来患者数は、平成24年度に続き、平成25年度においても上向いた。平成20年度以降、順調に増加してきた入院患者数は平成25年度において減少に転じた。それに伴い入院収益が減少した。 ②平成22年度は、救急専門医師が2名であったが、平成23年度以降は3名に増員したことにより救急医療体制が充実し、患者数の増加が続いている。 ③救命救急センターを持つ地域の中核病院として、地域の救急医療に貢献している。	○	○	
	外来延患者数	184,388人	189,485人				190,009人
	外来収益	1,625,840千円	1,702,104千円				1,700,154千円
	入院延患者数	135,951人	138,451人				131,170人
	入院収益	4,149,792千円	4,219,196千円				4,101,320千円
	救急取扱患者数	13,697人	13,987人				14,637人
	救急車搬送件数	2,015件	1,927件				2,016件
② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供	平成23年度	平成24年度	平成25年度	①平成24年度より、協会けんぽ生活習慣病予防健診、市町個別がん検診に参加したことにより、健診者数は増加した。 ②専従の医師確保に苦慮している。	○	○	
	健診者数	950人	1,127人				1,690人
	うち要医療指摘者数	605人	598人				738人
	健診収益	49,146千円	51,818千円				54,832千円

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																															
③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供	<p>4月 淡路島での地震（震度6弱）により隊員召集・待機</p> <p>6月 福井県DMAT*1連絡協議会（1名参加）</p> <p>8月 政府主催 広域患者搬送訓練（全国規模）隊員4名が参加し愛知県内での訓練活動を実施</p> <p>10月 DMAT隊員技能維持研修（石川県金沢市）（1名参加）</p> <p>※奇数月の第2木曜日に定例の隊員ミーティングを実施し、情報交換や資機材点検を実施</p> <p>※平成25年度の福井県総合防災訓練は、ごく小規模での実施計画となり、嶺北の5チームを対象として実施されたため、当院は参加せず</p>	<p>有資格の職員（医師、看護師）の退職により、チーム編成が難しい状況となったが、訓練や研修会へは積極的に参加している。</p> <p>平成25年度中に緊急車両（救急車）が配備され、有事の際にはいち早く現場への移動が可能となり、さらに、県の補助により、チーム資機材の追加配備が実施された（ベンチレーター、AED、エコー等）ことにより、機動的な活動が期待できる。</p> <p>新規の隊員養成については、継続して県当局に養成研修会への参加を要望中である。</p>	○	○																																															
④ へき地医療拠点病院としての機能の提供	<table border="1" data-bbox="495 724 1227 842"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回診療日数</td> <td>168日</td> <td>168日</td> <td>168日</td> </tr> <tr> <td>延患者数</td> <td>1,093人</td> <td>1,057人</td> <td>905人</td> </tr> </tbody> </table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	巡回診療日数	168日	168日	168日	延患者数	1,093人	1,057人	905人	<p>へき地医療拠点病院として、無医地区への巡回診療を担当しているが、地域の過疎化により受診者は減少している。しかし、交通手段の乏しい地区への定期的な診療は、地域医療に大きく貢献している。</p> <p>また、名田庄診療所の要請により医師を派遣した。</p>	○	○																																			
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																																																
巡回診療日数	168日	168日	168日																																																
延患者数	1,093人	1,057人	905人																																																
⑤ 小児医療・産科医療の確保	<table border="1" data-bbox="495 932 1227 1358"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">小児医療</td> <td>外来延患者数</td> <td>17,152人</td> <td>17,071人</td> <td>16,262人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>1,650人</td> <td>1,712人</td> <td>1,359人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>148,557千円</td> <td>146,195千円</td> <td>129,633千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">産科医療</td> <td>外来延患者数</td> <td>7,439人</td> <td>7,261人</td> <td>6,439人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>3,491人</td> <td>3,885人</td> <td>2,435人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>161,893千円</td> <td>168,752千円</td> <td>124,807千円</td> </tr> <tr> <td>正常分娩</td> <td>110件</td> <td>100件</td> <td>133件</td> </tr> <tr> <td>異常分娩</td> <td>77件</td> <td>75件</td> <td>29件</td> </tr> <tr> <td>帝王切開</td> <td>44件</td> <td>42件</td> <td>40件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>231件</td> <td>217件</td> <td>202件</td> </tr> </tbody> </table>			平成23年度	平成24年度	平成25年度	小児医療	外来延患者数	17,152人	17,071人	16,262人	入院延患者数	1,650人	1,712人	1,359人	外来・入院収益	148,557千円	146,195千円	129,633千円	産科医療	外来延患者数	7,439人	7,261人	6,439人	入院延患者数	3,491人	3,885人	2,435人	外来・入院収益	161,893千円	168,752千円	124,807千円	正常分娩	110件	100件	133件	異常分娩	77件	75件	29件	帝王切開	44件	42件	40件	計	231件	217件	202件	<p>地方の医療機関で医師不足が深刻化する中、小児科医3名、産科医2名を維持しながら地域医療を担っている状況にある。</p> <p>（平成25年4月より小児科は3名体制となった。）</p> <p>小児医療については、休日の小児医療の確保の他、嶺南地域の小児療育医療に取り組んでおり、平成24年度に小児療育施設が完成した。</p> <p>産科医療では、地域の妊産婦が安心して分娩できるよう医療体制を維持していく。</p> <p>しかし収益面では、少子化による患者数の減少により悪化している。</p>	○	○
		平成23年度	平成24年度	平成25年度																																															
小児医療	外来延患者数	17,152人	17,071人	16,262人																																															
	入院延患者数	1,650人	1,712人	1,359人																																															
	外来・入院収益	148,557千円	146,195千円	129,633千円																																															
産科医療	外来延患者数	7,439人	7,261人	6,439人																																															
	入院延患者数	3,491人	3,885人	2,435人																																															
	外来・入院収益	161,893千円	168,752千円	124,807千円																																															
	正常分娩	110件	100件	133件																																															
	異常分娩	77件	75件	29件																																															
	帝王切開	44件	42件	40件																																															
	計	231件	217件	202件																																															

役割と計画	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																															
⑥ 研修機能の充実	<p>①研修環境整備として医師、看護師向け各種医療用シミュレーターを平成22年度に購入し、研修に利用している。</p> <p>②TV会議システムを導入し、福井大学病院、福井県立病院など福井県内の7病院を回線で繋ぎ、双方向通信により他病院との会議・勉強会の開催や講演会などの受講が、当院に居ながら可能になり、継続的に利用している。</p> <p>③研修医については、平成25年度も引き続きフルマッチであり、研修修了者1名が後期研修に残った。</p> <p>④医師の国内研修制度を整備し、研修を推奨している。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="495 459 1227 887"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">学会出席</td> <td>医 師</td> <td>228</td> <td>246</td> <td>247</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>97</td> <td>154</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>医 療 技 術 員</td> <td>75</td> <td>139</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>事 務 、 他</td> <td>72</td> <td>81</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>472</td> <td>620</td> <td>567</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">臨床研修医</td> <td>病 院 単 独</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>たすきがけ医科</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>” 歯科</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>救急救命士研修</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>			平成23年度	平成24年度	平成25年度	学会出席	医 師	228	246	247	看 護 師	97	154	165	医 療 技 術 員	75	139	90	事 務 、 他	72	81	65	計	472	620	567	臨床研修医	病 院 単 独	7	7	8	たすきがけ医科	1	1	0	” 歯科	1	0	0	計	9	8	8	救急救命士研修	12	16	1	<p>①新人はもとより職場復帰者の研修においても、より安全に技術の向上が図れる体制が整った。</p> <p>②地域性の問題を解消し医療知識の向上が図れるようになった。現在は毎週金曜日に福井大学の研修医・医療従事者向けコアレクチャーなどを受講している。</p> <p>③今後も研修医の指導を充実させ、研修医を確保・定着を図るとともに嶺南医療振興財団の奨学生を確保する。</p> <p>④医師の技術習得・他病院での研修に対する支援制度確立を図った。</p> <p>⑤看護師については、引き続き認定看護師の養成に努力しており、平成25年度では、1名が認定され、計3名となった。新たに4名が研修に参加した。また、専任教員養成研修においては、平成25年も1名が受講した。</p>	○	○
		平成23年度	平成24年度	平成25年度																																															
学会出席	医 師	228	246	247																																															
	看 護 師	97	154	165																																															
	医 療 技 術 員	75	139	90																																															
	事 務 、 他	72	81	65																																															
	計	472	620	567																																															
臨床研修医	病 院 単 独	7	7	8																																															
	たすきがけ医科	1	1	0																																															
	” 歯科	1	0	0																																															
	計	9	8	8																																															
救急救命士研修	12	16	1																																																
⑦ 看護師の養成・確保	<p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="495 962 1227 1233"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">看護師</td> <td>新 採 用</td> <td>19</td> <td>17</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>退 職</td> <td>16</td> <td>23</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>増 減</td> <td>3</td> <td>-6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護学生</td> <td>入 学 生</td> <td>37</td> <td>32</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>卒 業 生</td> <td>20</td> <td>32</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>小浜病院組合就職者</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>			平成23年度	平成24年度	平成25年度	看護師	新 採 用	19	17	20	退 職	16	23	19	増 減	3	-6	1	看護学生	入 学 生	37	32	44	卒 業 生	20	32	31	小浜病院組合就職者	6	12	11	<p>①看護師の確保については、7：1看護体制を維持するための人数確保に努力している。引き続き、若狭高看の卒業生を確保するとともに、他の看護学校・看護大学の新卒者や潜在看護師の確保を図る。</p> <p>②看護師確保の為、修学資金を月5万円に増額するとともに、看護大学進学者等への奨学金制度を平成25年度より施行した。</p> <p>③看護師の養成については、9年連続で国家試験合格率が100%の実績を残せた。今後も、学生の獲得を図る。</p>	△	△																
		平成23年度	平成24年度	平成25年度																																															
看護師	新 採 用	19	17	20																																															
	退 職	16	23	19																																															
	増 減	3	-6	1																																															
看護学生	入 学 生	37	32	44																																															
	卒 業 生	20	32	31																																															
	小浜病院組合就職者	6	12	11																																															

役割と計画	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価
⑧ 地域医療機関との連携の推進		平成23年度	平成24年度	平成25年度	<p>内科、整形外科を紹介制にした影響もあり、紹介率・逆紹介率ともに増加傾向にある。</p> <p>地域の医療機関との連携について連絡・協議を行う体制作りに取り組み、紹介率、逆紹介率の向上、高額医療機器・病床の共同利用等、地域の基幹病院としての機能の向上に取り組んでいきたい。</p>	△	△
	紹介患者数	3,597人	3,779人	3,945人			
	逆紹介患者数	2,258人	2,355人	2,485人			
	紹介率	25.8%	26.3%	26.3%			
	逆紹介率	19.7%	20.7%	21.7%			

経費削減・抑制対策	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価																																	
<p>① 給与費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務委託・機械化することにより、給与費の抑制を図る。 医師・看護師を除く職種については、原則として増員しない。 	<p style="text-align: center;">(人数は4月1日付)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 25%;">平成23年度</th> <th style="width: 25%;">平成24年度</th> <th style="width: 25%;">平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">職員数</td> <td>医 師</td> <td>43 (8) 人</td> <td>42 (13) 人</td> <td>45 (10) 人</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>241 (74) 人</td> <td>240 (78) 人</td> <td>233 (69) 人</td> </tr> <tr> <td>医 療 技 術 員</td> <td>68 (5) 人</td> <td>69 (5) 人</td> <td>72 (7) 人</td> </tr> <tr> <td>事 務 ・ 他</td> <td>95 (31) 人</td> <td>95 (35) 人</td> <td>91 (41) 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>447 (118) 人</td> <td>446 (131) 人</td> <td>441 (127) 人</td> </tr> <tr> <td>給 与 費</td> <td>3,386,602千円</td> <td>3,376,122千円</td> <td>3,391,178千円</td> </tr> <tr> <td>対医業収益比 (%)</td> <td>54.3%</td> <td>53.1%</td> <td>54.4%</td> </tr> </tbody> </table>					平成23年度	平成24年度	平成25年度	職員数	医 師	43 (8) 人	42 (13) 人	45 (10) 人	看 護 師	241 (74) 人	240 (78) 人	233 (69) 人	医 療 技 術 員	68 (5) 人	69 (5) 人	72 (7) 人	事 務 ・ 他	95 (31) 人	95 (35) 人	91 (41) 人	計	447 (118) 人	446 (131) 人	441 (127) 人	給 与 費	3,386,602千円	3,376,122千円	3,391,178千円	対医業収益比 (%)	54.3%	53.1%	54.4%	<p>①職員数は減少しているが、平成25年度においては、電子カルテの導入作業による超過勤務等の増加により給与費は増加し、対医業収益比は悪化した。</p> <p>②業務委託の拡大は、職員の退職の状況等を考慮しながら引き続き検討する。</p>	△	△
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																																					
職員数	医 師	43 (8) 人	42 (13) 人	45 (10) 人																																				
	看 護 師	241 (74) 人	240 (78) 人	233 (69) 人																																				
	医 療 技 術 員	68 (5) 人	69 (5) 人	72 (7) 人																																				
	事 務 ・ 他	95 (31) 人	95 (35) 人	91 (41) 人																																				
	計	447 (118) 人	446 (131) 人	441 (127) 人																																				
給 与 費	3,386,602千円	3,376,122千円	3,391,178千円																																					
対医業収益比 (%)	54.3%	53.1%	54.4%																																					
<p>② 経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療材料の購入は「診療材料検討委員会」で充分審議し、安価な材料に変更可能なものは変更する。また、物品の一括管理（SPD）の実施により診療材料等を定数管理しているが使用状況の確認を一層強化し、実績の2%削減を目指す。薬品費の削減を図る。 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 25%;">平成23年度</th> <th style="width: 25%;">平成24年度</th> <th style="width: 25%;">平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬 品 費</td> <td>644,914千円</td> <td>672,921千円</td> <td>656,915千円</td> </tr> <tr> <td>対医業収益比 (%)</td> <td>10.7%</td> <td>10.8%</td> <td>10.8%</td> </tr> <tr> <td>診 療 材 料 費</td> <td>512,801千円</td> <td>498,819千円</td> <td>507,382千円</td> </tr> <tr> <td>対医業収益比 (%)</td> <td>8.5%</td> <td>8.0%</td> <td>8.1%</td> </tr> <tr> <td>経 費</td> <td>722,864千円</td> <td>785,347千円</td> <td>840,800千円</td> </tr> <tr> <td>対医業収益比 (%)</td> <td>11.9%</td> <td>12.7%</td> <td>13.9%</td> </tr> <tr> <td>う ち 委 託 費</td> <td>385,090千円</td> <td>421,501千円</td> <td>463,162千円</td> </tr> </tbody> </table>					平成23年度	平成24年度	平成25年度	薬 品 費	644,914千円	672,921千円	656,915千円	対医業収益比 (%)	10.7%	10.8%	10.8%	診 療 材 料 費	512,801千円	498,819千円	507,382千円	対医業収益比 (%)	8.5%	8.0%	8.1%	経 費	722,864千円	785,347千円	840,800千円	対医業収益比 (%)	11.9%	12.7%	13.9%	う ち 委 託 費	385,090千円	421,501千円	463,162千円	<p>①薬品費削減を図るため後発品の使用を拡大している。入院収益の減に伴い、薬品費も減少した。</p> <p>②診療材料費削減を図るため、同等品で安価なものへ切替等努力しているが、手術材料等の増加により、対医業収益比は悪化した。</p> <p>③経費については、価格高騰で光熱水費は増加傾向にあるが、業者交渉による削減努力を行っている。委託費については、職員採用を抑え派遣等への切替の他、検査委託、画像診断委託等の業務量の増により、委託費が増加傾向にある。</p>	△	△	
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																																					
薬 品 費	644,914千円	672,921千円	656,915千円																																					
対医業収益比 (%)	10.7%	10.8%	10.8%																																					
診 療 材 料 費	512,801千円	498,819千円	507,382千円																																					
対医業収益比 (%)	8.5%	8.0%	8.1%																																					
経 費	722,864千円	785,347千円	840,800千円																																					
対医業収益比 (%)	11.9%	12.7%	13.9%																																					
う ち 委 託 費	385,090千円	421,501千円	463,162千円																																					

収入増加・確保対策	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																
① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率（全体）</td> <td>82.5%</td> <td>84.3%</td> <td>79.9%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数（一般）</td> <td>16日</td> <td>16日</td> <td>16日</td> </tr> </tbody> </table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	病床利用率（全体）	82.5%	84.3%	79.9%	平均在院日数（一般）	16日	16日	16日	救急科での1泊入院、クリニカルパスの活用などにより、平均在院日数は低く推移している。入院患者数の減少により、病床稼働率は低下した。	△	△				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																	
病床利用率（全体）	82.5%	84.3%	79.9%																	
平均在院日数（一般）	16日	16日	16日																	
② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。（年間 21,900千円）	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>亜急性期病床</td> <td>20床</td> <td>20床</td> <td>20床</td> </tr> <tr> <td>1日平均患者数</td> <td>18.3人</td> <td>18.1人</td> <td>12.5人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>91.3%</td> <td>90.4%</td> <td>62.5%</td> </tr> </tbody> </table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	亜急性期病床	20床	20床	20床	1日平均患者数	18.3人	18.1人	12.5人	病床利用率	91.3%	90.4%	62.5%	亜急性期病棟は、施設基準の改正等により、平成25年度をもって廃止し、同一フロアの一般病床とともに療養病棟へ変更した。今後も、患者の病態等の状況等を踏まえ柔軟に対応したい。	—	—
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																	
亜急性期病床	20床	20床	20床																	
1日平均患者数	18.3人	18.1人	12.5人																	
病床利用率	91.3%	90.4%	62.5%																	
③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。	平成23年12月より、初診時特定療養費・一部診断書料金について県内の病院料金を考慮し増額改定した。	平成22年度と比較し、平成25年度の手数料収益は4,678千円の増収となった。	○	○																
④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。	(平成25年度診療報酬関係研修会参加状況) 診療情報管理士専門課程 2名参加 診療情報管理士基礎課程 4名参加 DPC分析セミナー 3名参加 第40回診療録情報管理懇話会 1名参加 第17回中国診療情報管理研修会 1名参加 県ICDコーディング勉強会 2名参加 第3回全国医事医療研究会 1名参加 診療報酬管理研修会 1名参加 診療報酬改定セミナー 19名参加 診療報酬改定説明 2回（所属長会議）	医師をはじめ、看護師、医療技術員に対しても、診療報酬改定の院内講習会を実施した。更に事務部において研修、情報収集、分析を行い各職種に対し問題提起すると同時に、適切なコーディング等によりDPCを有効に活用し収益増を目指す。その為、診療情報管理士の取得育成のために研修派遣をおこなっている。	○	○																

収入増加・確保対策	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																				
⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類包括評価（DPC）準備病院に平成20年度申請した。	<p>平成22年7月よりDPC請求開始。</p> <p>（平成24年度） 診療情報管理士基礎課程を2名受講。 診療情報管理士専門課程を2名受講。 診療情報管理士試験に3名合格となった。</p> <p>（平成25年度） 診療情報管理士基礎課程を4名受講。 診療情報管理士専門課程を2名受講</p>	<p>院内の診療情報管理士は5名となった。今後も引き続き診療情報管理士養成に取り組み、DPC*2を有効に活用する。</p> <p>（平成26年度） 診療情報管理士基礎課程を2名受講中。 診療情報管理士専門課程を4名受講中。</p>	○	○																				
⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。	<table border="1" data-bbox="495 499 1227 694"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>3,597人</td> <td>3,779人</td> <td>3,945人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>2,258人</td> <td>2,355人</td> <td>2,485人</td> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>25.8%</td> <td>26.3%</td> <td>26.3%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>19.7%</td> <td>20.7%</td> <td>21.7%</td> </tr> </tbody> </table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	紹介患者数	3,597人	3,779人	3,945人	逆紹介患者数	2,258人	2,355人	2,485人	紹介率	25.8%	26.3%	26.3%	逆紹介率	19.7%	20.7%	21.7%	地域医療支援病院の認定要件が緩和されることを期待したが、現時点での認定取得は困難である。	×	×
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																					
紹介患者数	3,597人	3,779人	3,945人																					
逆紹介患者数	2,258人	2,355人	2,485人																					
紹介率	25.8%	26.3%	26.3%																					
逆紹介率	19.7%	20.7%	21.7%																					

*1 DMA T…医師・看護師・医療職及び事務職員で構成され、大規模災害等が発生した事故などの現場に、急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム。

*2 DPC…診断群分類包括評価（DPC）を用いた入院医療費の定額支払い。

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 委員名簿

区分	氏名	所属団体・役職等
委員長	白髪 昌世	広島国際大学医療経営学部医療経営学科教授
委員	濱詰 健二	小浜信用金庫理事
委員	吉井 正雄	小浜医師会 会長
委員	吉村 忠康	小浜市民生部長
委員	宮脇 美恵子	福井県連合婦人会 副会長

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 開催日

平成26年8月20日（水） 午後7時より 杉田玄白記念公立小浜病院 9階会議室